

2017年度 決算 及び
2018年度 業績見通し
説明資料

帝人株式会社
2018年5月9日

-
1. 2017年度 決算概況 P. 2
 2. 2018年度 業績見通し P.13
 3. 参考資料 P.26

見通しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

本資料は2018年5月9日午前11時30分に公表した弊社決算発表に基づくものです。

1. 2017年度 決算概況

決算ハイライト

- ・ アラミド繊維、樹脂の販売が好調
- ・ 医薬品・在宅医療が大幅増益
- ・ 当期利益は16年度の特殊要因を除くと増益

売上高

+12.6%



16年度

17年度

営業利益

+23.6%



16年度

17年度

親会社株主に帰属する
当期純利益

-9.1%

(単位：億円)

特殊要因
約110億円

16年度

17年度

- ・ アラミド繊維、樹脂、医薬品の販売が好調
- ・ 17年度 医薬品分野における新規アルツハイマー病治療薬候補化合物の導出対価受け取り
- ・ 複合成形材料分野のCSP社* 連結子会社化で増収
- ・ 赤字であった米国在宅医療からの撤退が増益に寄与
- ・ 営業利益 増益
- ・ 17年度 固定資産売却益を計上
- ・ 16年度 米国在宅医療からの撤退に伴う特殊要因約110億円(益)を含む

* コンチネンタル・ストラクチャル・プラスチック社（以下CSP社）：2017年1月に連結子会社化

◆ 経営成績

(億円)

	16年度	17年度	差異
売上高	7,413	8,350	+937
営業利益	565	698	+133
営業外損益	-6	-20	-14
経常利益	559	678	+119
特別損益	-220	1	+221
税金等調整前 当期純利益	339	679	+340
親会社株主に帰属する 当期純利益	501	456	-46
ROE *1	15.7%	12.5%	-3.2%
営業利益ROIC *2	10.0%	11.2%	+1.2%
EBITDA *3	958	1,155	+196

*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出
 2 「営業利益÷投下資本」にて算出 * 純資産+有利子負債-現金および預金

	16年度	17年度	差異
設備投資 *4	462	446	-16
減価償却費	393	457	+63
研究開発費	354	359	+5

2017年度 配当金

中間 30円/株 期末 30円/株 年間 60円/株

◇ P L 換算レート	16年度	17年度	差異
円/米ドル	108	111	+2
円/ユーロ	119	130	+11
米ドル/ユーロ	1.10	1.17	+0.07

*3 「営業利益+減価償却費(のれんを含む)」にて算出
 *4 設備投資には無形固定資産を含む

◆ 営業外損益

	16年度	17年度	差異
受取利息	6	10	+3
受取配当金	19	20	+2
持分法による投資利益	21	12	-9
その他	19	18	-1
営業外収益 計	65	60	-5
支払利息	22	26	+4
為替差損	17	—	-17
デリバティブ評価損	5	31	+26
その他	25	22	-3
営業外費用 計	70	80	+10
営業外損益 計	-6	-20	-14

◆ 特別損益

(億円)

	16年度	17年度	差異
固定資産売却益	3	56	+53
投資有価証券売却益	1	6	+5
その他	18	6	-12
特別利益 計	22	68	+45
固定資産除売却損	48	41	-6
事業構造改善費用	163	8	-155
その他	31	17	-14
特別損失 計	242	67	-176
特別損益 計	-220	1	+221

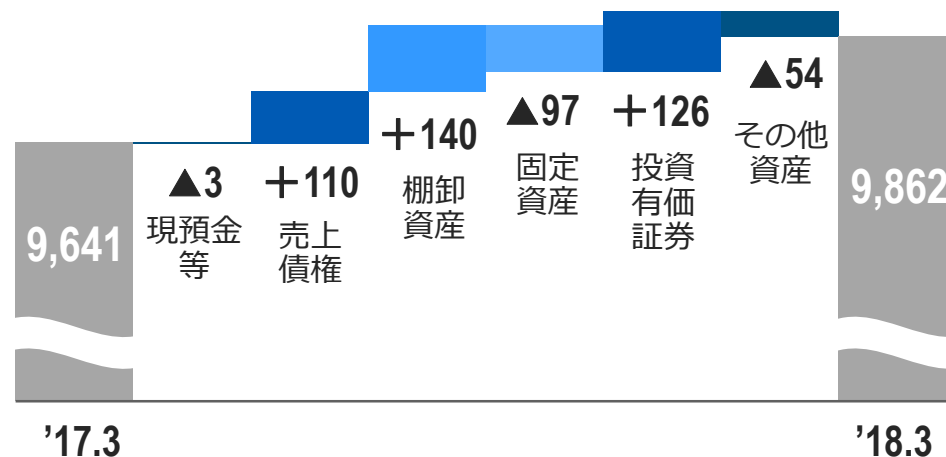
◆ 財政状態

(億円)	17年 3月末	18年 3月末	差異	内 為替 換算影響
総資産	9,641	9,862	+221	+48
負債	6,122	5,779	-343	+7
(内 有利子負債)	3,762	3,442	-320	-11
純資産	3,518	4,082	+564	+41
D/Eレシオ	1.11	0.88	-0.24	—

◆ キャッシュ・フローの状況

(億円)	16年度	17年度	差異
営業活動	790	801	+11
投資活動	-1,277	-513	+763
フリー・キャッシュ・フロー	-486	288	+774
財務活動ほか	652	-302	-954
現金及び 現金同等物増減	166	-14	-180

◇ 総資産 増減内訳 (億円)



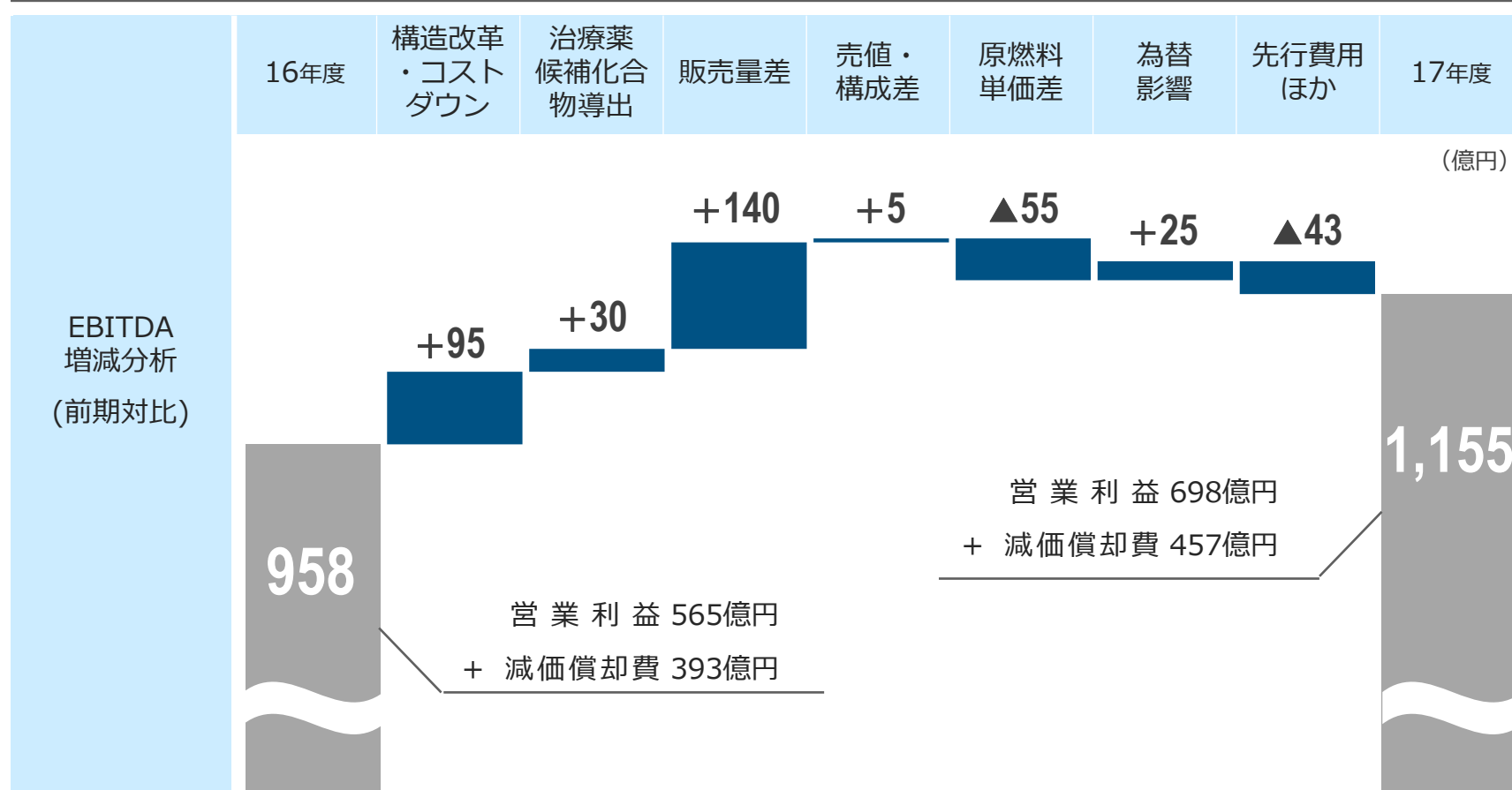
◇ BS換算レート

	17年 3月末	18年 3月末	差異
円/米ドル	112	106	-6
円/ユーロ	120	131	+11
米ドル/ユーロ	1.07	1.23	+0.16

◆ EBITDA*増減内訳 (前期対比)

前期対比
増益

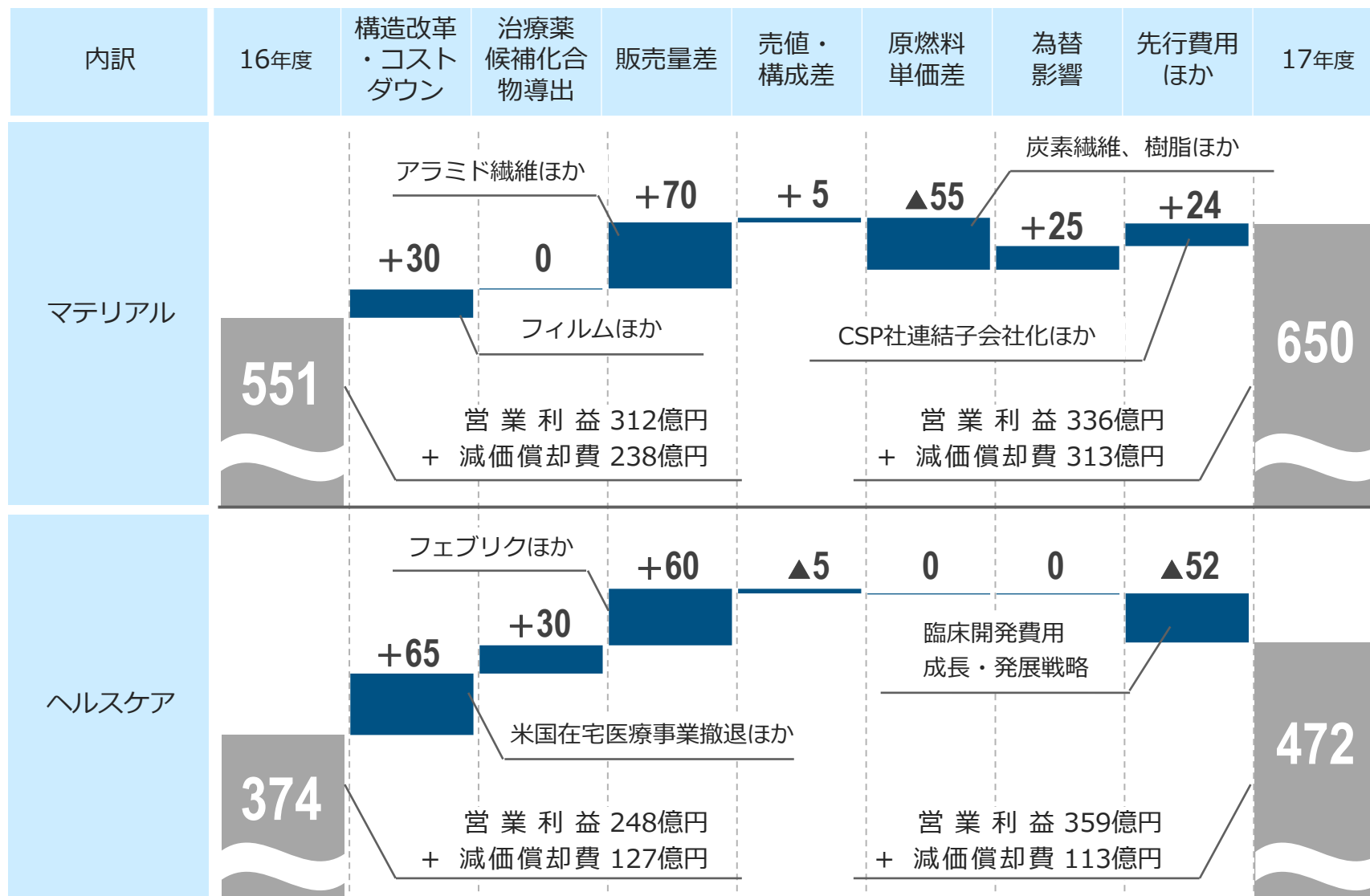
- (+) 構造改革：米国在宅医療からの撤退影響等
- (+) 新規アルツハイマー病治療薬候補化合物の導出対価
- (+) 販売量差：アラミド繊維の自動車向け増、医薬品分野の「フェブリク」増等



* 「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

◆ セグメント別 EBITDA*1増減内訳 (前期対比)

(億円)



*1 「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

◆ セグメント別 売上高・営業利益推移

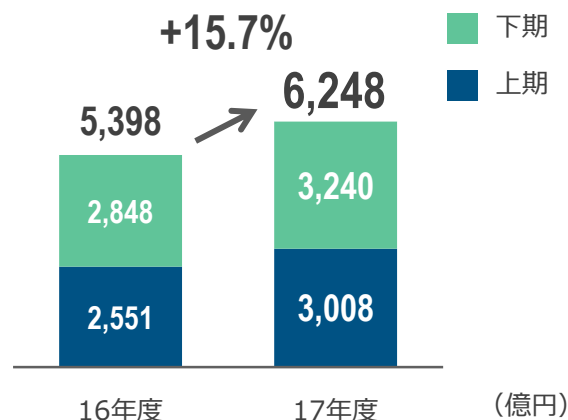
		16年度 実績*1	17年度 実績	差異	増減率	17年度	17年度	差異	増減率
						前回見直し*2	実績		
(億円)									
売上高	マテリアル事業	2,281	2,541	+260	+11.4%	2,500	2,541	+41	+1.6%
	繊維・製品事業	2,873	2,932	+60	+2.1%	3,000	2,932	-68	-2.3%
	複合成形材料事業ほか	245	775	+530	+216.4%	750	775	+25	+3.4%
	マテリアル 計	5,398	6,248	+850	+15.7%	6,250	6,248	-2	-0.0%
	ヘルスケア	1,507	1,554	+47	+3.1%	1,550	1,554	+4	+0.2%
	その他	508	548	+40	+7.9%	600	548	-52	-8.7%
合計		7,413	8,350	+937	+12.6%	8,400	8,350	-50	-0.6%
営業利益	マテリアル	312	336	+24	+7.7%	330	336	+6	+1.9%
	ヘルスケア	248	359	+112	+45.1%	360	359	-1	-0.2%
	その他	53	61	+8	+15.9%	55	61	+6	+11.6%
	消去又は全社	-48	-59	-11	—	-65	-59	+6	—
	合計	565	698	+133	+23.6%	680	698	+18	+2.7%

*1 16年度実績の各数値は2017年5月9日公表後にセグメント間の調整を加えた結果、見直しを実施しております。*2 前回見直しは2018年2月5日公表

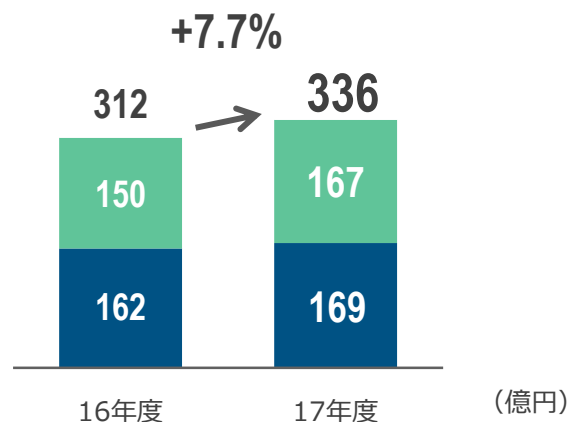
マテリアル

- ・ アラミド繊維・樹脂の販売が好調
- ・ CSP社の連結子会社化により増収

売上高



営業利益



マテリアル事業

17年度売上高2,541億円(前年比+260億円)

- アラミド繊維の自動車・インフラ関連向け販売増
- 炭素繊維は航空機向け販売が順調も原燃料価格上昇が利益押下げ要因に
- ポリカーボネート (PC) 樹脂は需要堅調で販売構成が改善

繊維・製品事業

17年度売上高2,932億円(前年比+60億円)

- 欧米向けスポーツ・アウトドア用途が好調維持、衣料製品は国内主要顧客の在庫調整局面を受け低調に推移
- 自動車関連部材が堅調、復興需要・インフラ新設工事受注が一巡し、土木資材の販売が減少

複合成形材料事業ほか

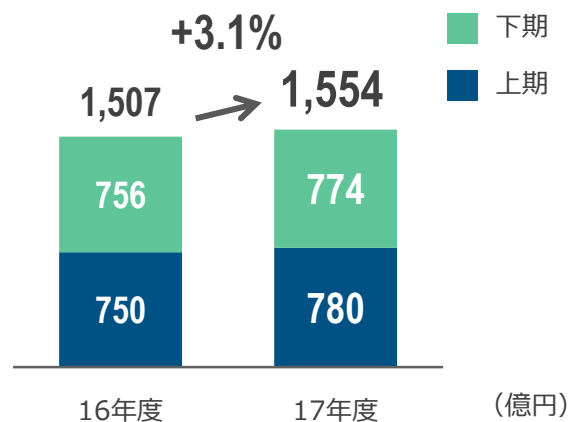
17年度売上高 775億円(前年比+530億円)

- CSP社の連結子会社化で増収。同社の自動車向け複合材料販売は北米のピックアップトラックやSUV車向けで堅調に推移
- 電池部材でリチウムイオンバッテリー用セパレータが既存顧客向け販売低調、新規顧客向け販売拡大に遅れ

ヘルスケア

- ・ 主力製品・サービスの販売が順調に拡大し増収
- ・ 赤字であった米国在宅医療事業からの撤退で収益改善

売上高



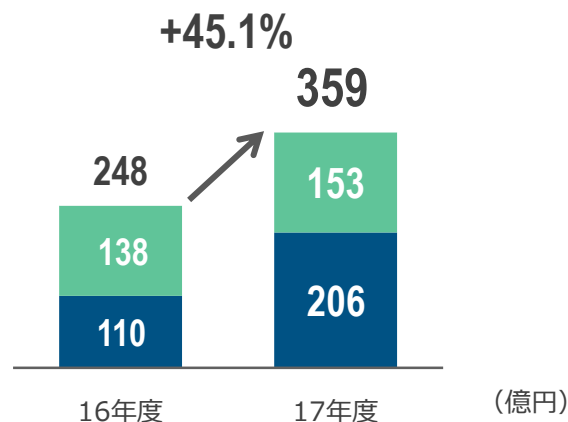
医薬品分野

- 高尿酸血症・痛風治療剤「フェブリック」の販売が拡大
- 新規アルツハイマー病治療薬候補化合物の米メルク社への導出に伴う対価を受け取り増益（2017年5月）

在宅医療分野

- H O T用酸素濃縮装置は高水準のレンタル台数を維持
睡眠時無呼吸症候群治療装置はレンタル台数が伸長
- 赤字であった米国事業からの撤退影響で減収・増益

営業利益



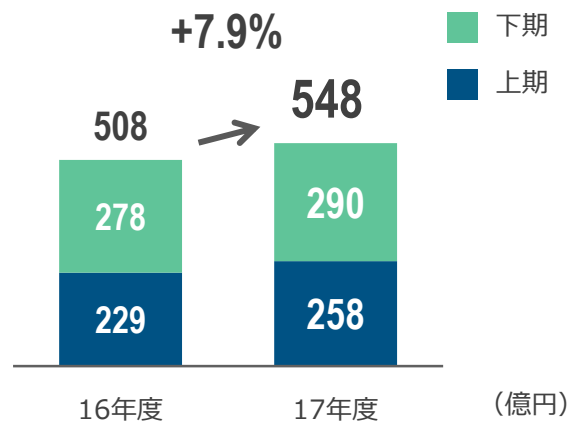
新規ヘルスケア分野

- 埋め込み型医療機器分野において、骨接合材及び脊椎領域の整形外科事業を当期より新たに加える

その他

IT事業が電子コミックやヘルスケアで順調に拡大

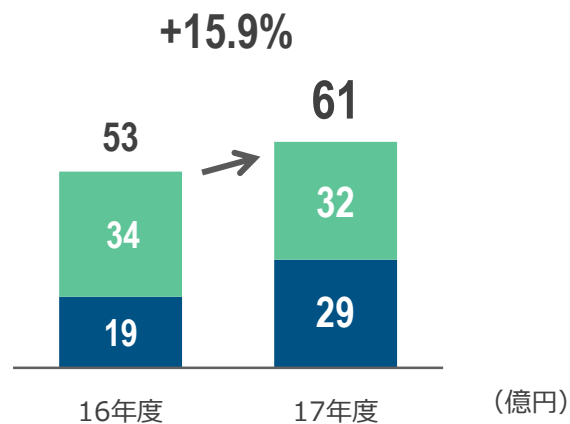
売上高



IT事業

- ネットビジネス分野において、電子コミック配信サービス「めちゃコミック」の売上が順調に拡大し、大手出版社とのコラボ企画も実施
- ITサービス分野において、病院向けのシステム製品販売が回復する等ヘルスケアが順調に推移

営業利益



2. 2018年度 業績見通し

◆ 2018年度 運営方針

「中期経営計画2017-2019」の2年目

事業ポートフォリオ変革の実現に向けて、中期経営計画のシナリオに基づき具体的な戦略的アクション(含む提携・M&A等)を着実に推進し、2019年度(中期最終年度)の目標達成及び2020年度以降の更なる成長・発展に繋げる

マテリアル

- **複合材料・部品ビジネスの拡大** - 自動車向けを中心に展開・加速
- **新規ビジネスの育成・拡大** - リチウムイオンバッテリー用セパレータの拡販
- **成長戦略事業での安定的な収益基盤獲得**
 - アラミドの生産能力増強、樹脂の付加価値向上
 - 炭素繊維北米工場建設の着実な推進
- **繊維・製品事業** - 生産販売一貫体制による成長シナリオ推進

ヘルスケア

- **領域全般の資源投入最適化と構造変革**
- **「フェブリク」の極大化による薬価改定影響の吸収**
- **在宅医療分野の基盤強化**
- **新規ヘルスケアビジネスの創出・拡大**

◆ 2018年度 運営方針

経営基盤強化

- **CSR活動の推進**
 - 顧客のニーズと社会の変化を先取りし、企業理念に根差した活動を推進
- **本社構造変革の着実な推進**
 - ビジネススタイル変革、RPA推進等
- **IT機能とヘルスケア領域の融合推進と成果の早期実現**
 - AI、IoT、データ活用等と事業戦略の一体運営による事業創生、基盤強化
- **100周年プロジェクト推進**
 - 100周年の感謝と、次の100年に向け“未来を支える会社”になることを改めて表明

業績指標推移

- ・ ROEは10%以上という中期目標を達成
- ・ EBITDAも2019年度目標に向け順調に拡大

ROE*1

10%以上

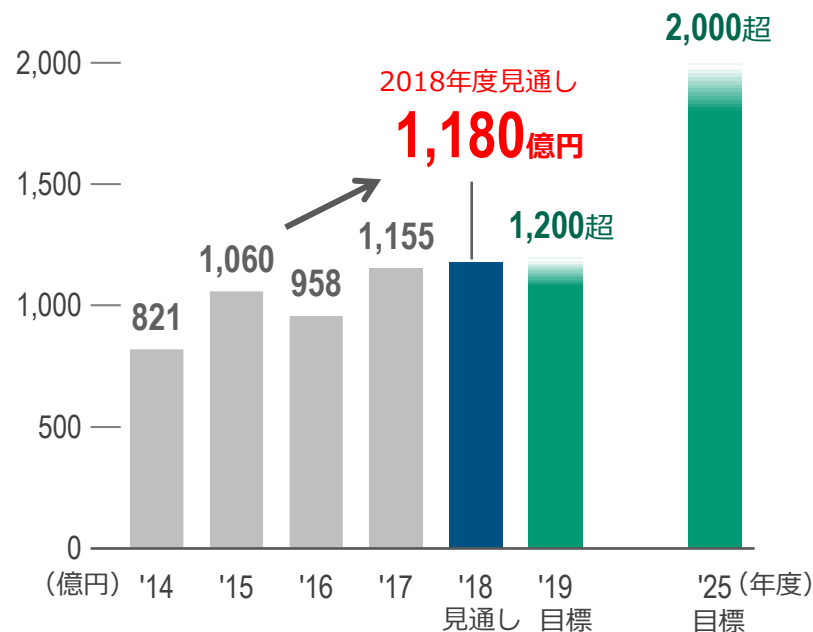
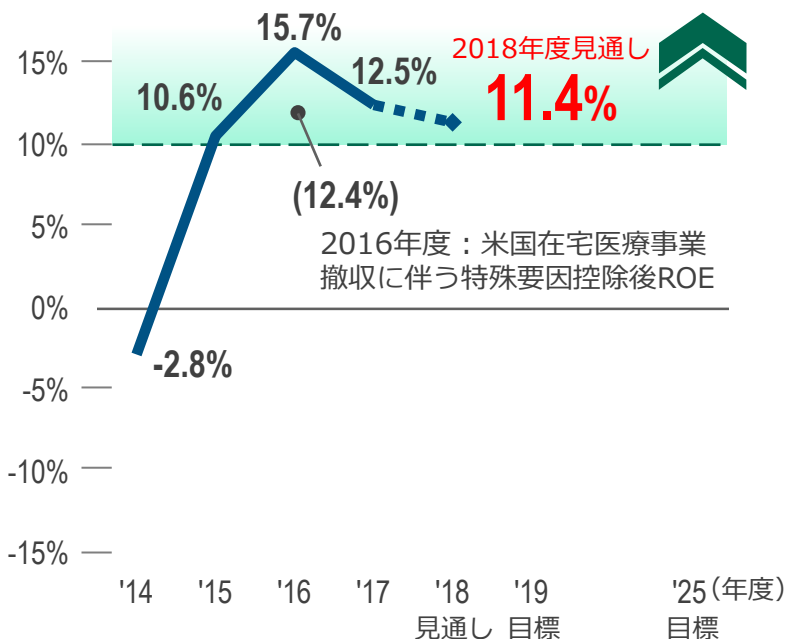
EBITDA*2

2019年度 **1,200**億円超

2025年度 **2,000**億円超

中期
目標

推移



*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出

*2 「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

通期業績見通しの概況

- ・ マテリアルの販売増や原燃料価格上昇分の転嫁等で増収
- ・ 17年度に導出対価計上の影響もあり営業利益は横這い
- ・ 経常利益710億円は過去最高益

(億円)	17年度	18年度 見通し	差異	増減率	(億円)	17年度	18年度 見通し	差異
売上高	8,350	8,800	+450	+5.4%	設備投資 *4	446	750	+304
営業利益	698	700	+2	+0.3%	減価償却費	457	480	+23
経常利益	678	710	+32	+4.7%	研究開発費	359	370	+11
親会社株主に帰属 する当期純利益	456	470	+14	+3.2%	フリー・キャッシュ・フロー	288	150	-138

ROE *1	12.5%	11.4%	-1.0%
営業利益ROIC *2	11.2%	10.3%	-0.9%
EBITDA (億円) *3	1,155	1,180	+25

2018年度見通し 配当金

中間 30円/株 期末 40円/株* 年間 70円/株*

*100周年記念配当10円/株を含む

2018年度見通し 前提条件

為替レート 米ドル=105円、ユーロ=130円
原油価格(Dubai) 65米ドル/バレル

*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出

2 「営業利益÷投下資本」にて算出 * 純資産+有利子負債-現金および預金

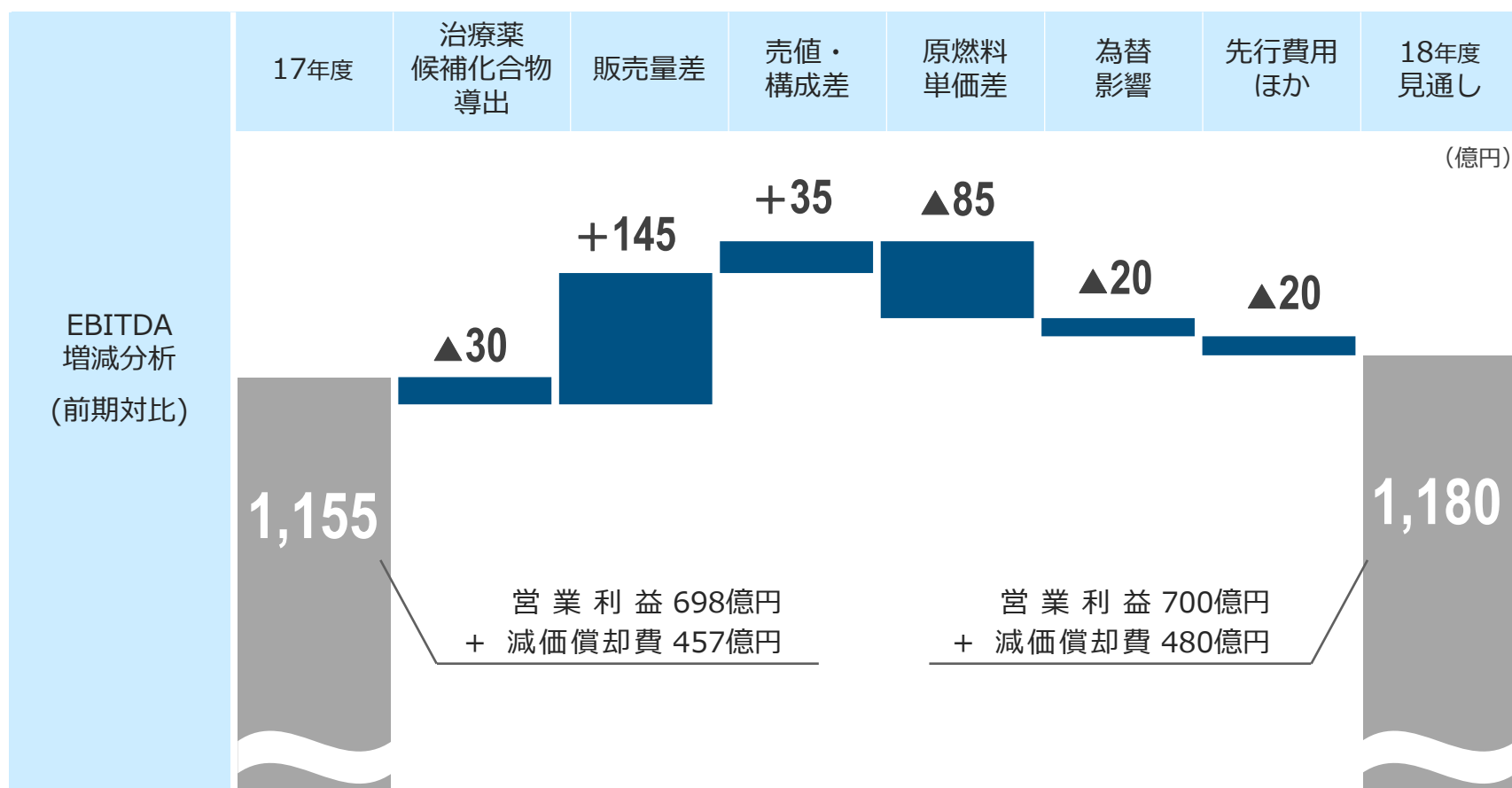
*3 「営業利益+減価償却費(のれんを含む)」にて算出

*4 設備投資には無形固定資産を含む

◆ EBITDA*増減内訳 (前期対比)

前期対比
増益見通し

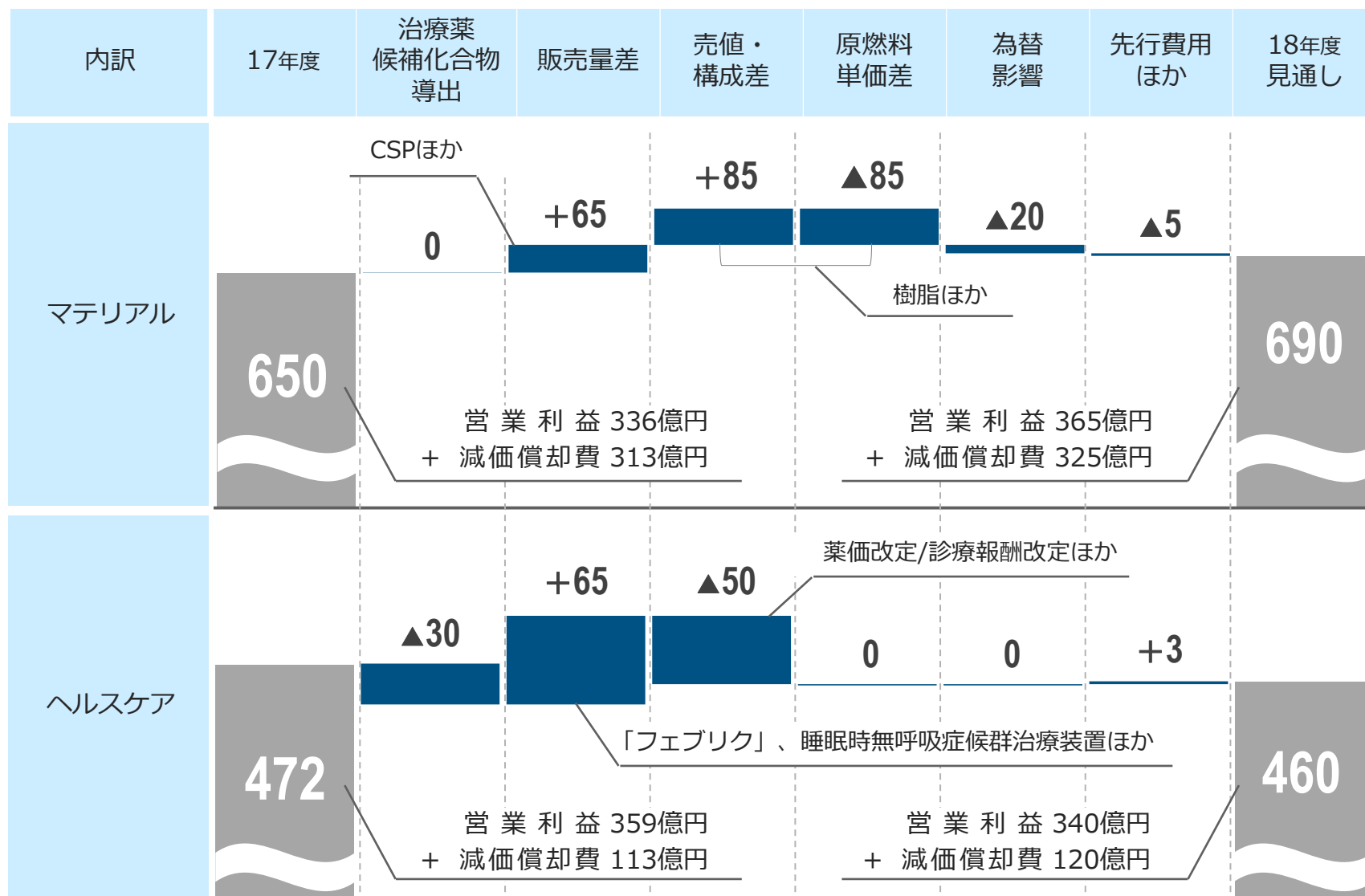
- (+) CSP社の自動車向け複合材料やセパレータの販売増、繊維・製品の改善
- (+) 高尿酸血症・痛風治療剤「フェブリク」、睡眠時無呼吸症候群治療器の販売増
- (-) 薬価・診療報酬改定影響、17年度のアルツハイマー治療薬候補化合物導出影響



* 「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

◆ セグメント別 EBITDA*1増減内訳 (前期対比)

(億円)



*1 「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

◆ セグメント別 経営指標

	16年度*1	17年度	差異	18年度	差異
	実績	実績		見通し	前期対比
EBITDA*2 (億円)					
マテリアル	551	650	+99	690	+40
ヘルスケア	374	472	+98	460	-12
その他	67	78	+11	80	+2
全社・消去	-34	-45	-11	-50	-5
合計	958	1,155	+196	1,180	+25
営業利益ROIC*3 (%)					
マテリアル	10%	9%	-1%	8%	-1%
ヘルスケア	22%	29%	+7%	24%	-5%
合計	10%	11%	+1%	10%	-1%

*1 16年度実績の各数値は、2017年5月9日公表後にセグメント間の調整を加えた結果、見直しを実施しております。

*2 「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

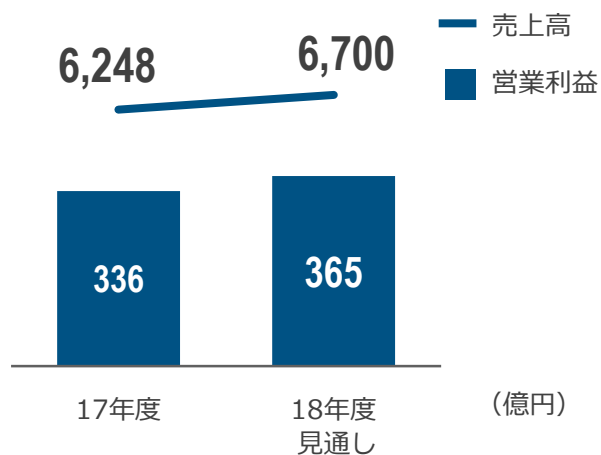
3 「営業利益÷投下資本」にて算出 *投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金および預金

◆ セグメント別 売上高・営業利益推移 (前期対比)

		17年度実績			18年度見通し			差異
		上期	下期	年間	上期	下期	年間	年間
(億円)								
売上高	マテリアル事業	1,234	1,307	2,541	1,300	1,350	2,650	+109
	繊維・製品事業	1,401	1,531	2,932	1,550	1,650	3,200	+268
	複合成形材料事業ほか	374	402	775	400	450	850	+75
	マテリアル 計	3,008	3,240	6,248	3,250	3,450	6,700	+452
	ヘルスケア	780	774	1,554	800	750	1,550	-4
	その他	258	290	548	250	300	550	+2
	合計	4,047	4,303	8,350	4,300	4,500	8,800	+450
営業利益	マテリアル	169	167	336	160	205	365	+29
	ヘルスケア	206	153	359	185	155	340	-19
	その他	29	32	61	25	35	60	-1
	消去又は全社	-29	-30	-59	-30	-35	-65	-6
	合計	375	323	698	340	360	700	+2

セグメント別業績見通し概況

マテリアル



CSP社やセパレータ、繊維・製品販売増で増益

- アラミド繊維：自動車向け需要堅調も大規模定修影響有り
- 炭素繊維：航空機向け販売堅調
- PC樹脂：原料価格高止まりも販売構成改善等でスプレッド維持
- フィルム：構造改革効果発現
- 繊維・製品：自動車向け産業資材販売増
- 複合成形材料：CSP社で自動車新モデルへの採用による販売増
- 電池部材：民生用リチウムイオンバッテリー用セパレータ採用拡大

ヘルスケア



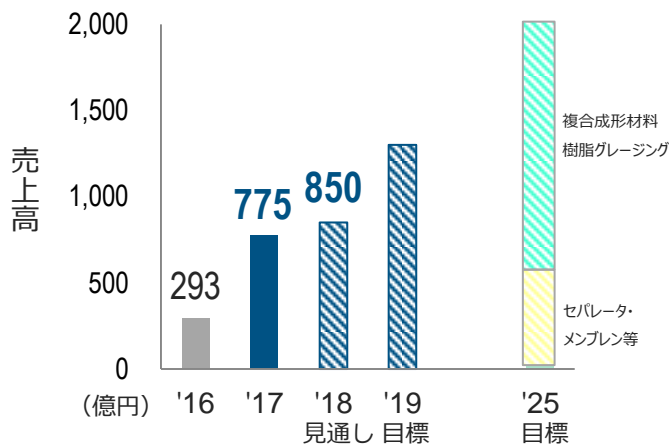
薬価・診療報酬改定影響を販売増でカバーも導出対価計上差あり減益

- 医薬品：高尿酸血症・痛風治療剤「フェブリク」販売増、薬価改定影響、17年度アルツハイマー治療薬候補化合物導出影響
- 在宅医療：睡眠時無呼吸症候群治療装置レンタル台数増、診療報酬改定影響
- 新規ヘルスケア：前期より開始した骨接合材等の事業が増収に寄与

発展戦略の目標と進捗

- ・ マテリアルはCSP社を中心に順調に拡大
- ・ ヘルスケアは製品・サービスのラインナップ拡充を進める

マテリアル 発展戦略



複合成形材料

- ・ 北米SUV車市場活況、CSP社自動車部品事業好調
- ・ FCA社「Jeep」等、新車採用展開拡大

樹脂グレージング

- ・ 市販車にPC樹脂製フロントウィンドウが搭載

リチウムイオンバッテリー用セパレータ

- ・ 民生用途の採用拡大

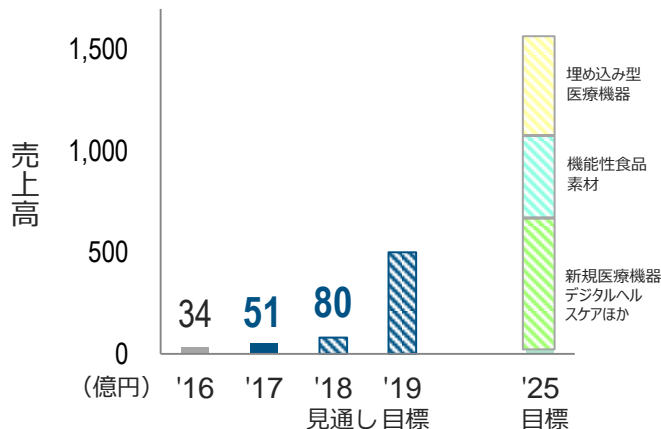
メンブレン

- ・ 松山事業所内に量産設備の新設を決定



「FCA社 新型Jeep」
2018年1月販売開始

ヘルスケア 発展戦略



埋め込み型医療機器

- ・ 骨接合材及び脊椎領域の整形外科事業に進出
- ・ 心・血管修復パッチが厚生労働省先駆け審査対象に

機能性食品素材

- ・ 大手食品メーカーとの連携、採用拡大
- ・ 新規スーパー穀物の探索推進

新規医療機器 デジタルヘルスケアほか

- ・ うつ病治療装置「NeuroStar」国内独占販売権取得
- ・ 「Sleep Styles 睡眠力向上プログラム」の提供開始

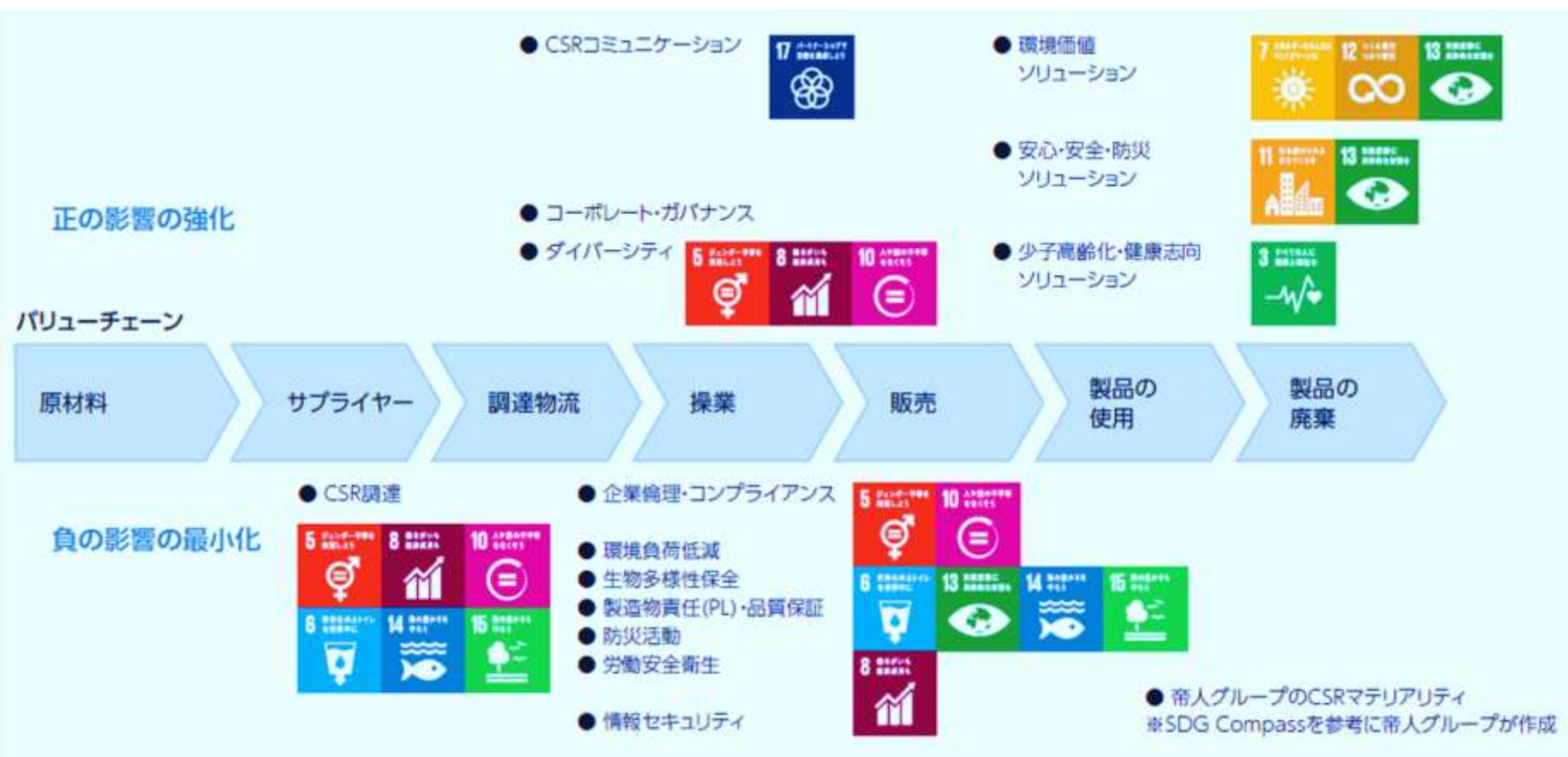


「心・血管修復パッチ」
2018年3月厚生労働省「先駆け審査指定制度」に選出。新たに追加された11品目のうちの1件。

非財務情報

帝人グループのCSRマテリアリティとSDGs

帝人グループでは、CSRマテリアリティ（重要課題）の特定にあたり、SDGs が示す社会課題を参照し、グローバルレベルで積極的に取り組んでいます



非財務情報

E S G 評価

G P I F の 3 つ の E S G 指数 全 て の 構成 銘柄 に 採用

帝人は、年金積立金管理運用独立行政法人（G P I F）が E S G 投資の運用開始にあたって選定した「FTSE Blossom Japan Index」、「MSCI ジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」、「MSCI日本株女性活躍指数（WIN）」の3つの指数全ての構成銘柄となりました。

（3つのE S G指数全てに選ばれたのは66社のみ）



FTSE Blossom
Japan



2017 Constituent
MSCI ジャパンESG
セレクト・リーダーズ指数



2017 Constituent
MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

3. 参考資料

◆ 主要経営指標推移

	14年度 実績	15年度 実績	16年度 実績	17年度 実績	18年度 見通し
ROE*1	-2.8%	10.6%	15.7%	12.5%	11.4%
営業利益ROIC *2	7.1%	12.7%	10.0%	11.2%	10.3%
EBITDA (億円) *3	821	1,060	958	1,155	1,180
1株当たり当期純利益 (円) *4	-41.1	158.1	254.9	231.3	237.7
1株当たり配当金 (円) *4	20	35	55	60	70
総資産 (億円)	8,237	8,234	9,641	9,862	10,500
有利子負債 (億円)	3,082	3,033	3,762	3,442	3,700
D/Eレシオ *5	1.07	1.01	1.11	0.88	0.9
自己資本比率	34.9%	36.4%	35.1%	39.8%	41.0%

*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出

2 「営業利益÷投下資本」にて算出

*純資産+有利子負債-現金および預金

*3 「営業利益+減価償却費(のれんを含む)」にて算出

*4 株式併合による株数の変化を反映したベースで記載

*5 「有利子負債÷自己資本」にて算出

◆ 連結貸借対照表

(億円)	16年度				17年度			
	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末
資産								
流動資産	4,137	4,036	5,096	4,668	4,736	4,595	4,755	4,897
固定資産	3,761	3,762	3,962	4,973	4,987	4,943	5,031	4,965
合計	7,898	7,797	9,058	9,641	9,723	9,538	9,786	9,862
負債・純資産								
負債	4,855	4,632	5,515	6,122	5,966	5,560	5,673	5,779
(内 有利子負債)	2,978	2,762	3,437	3,762	3,862	3,411	3,475	3,442
純資産	3,043	3,165	3,543	3,518	3,757	3,978	4,113	4,082
合計	7,898	7,797	9,058	9,641	9,723	9,538	9,786	9,862

◆ 連結損益計算書

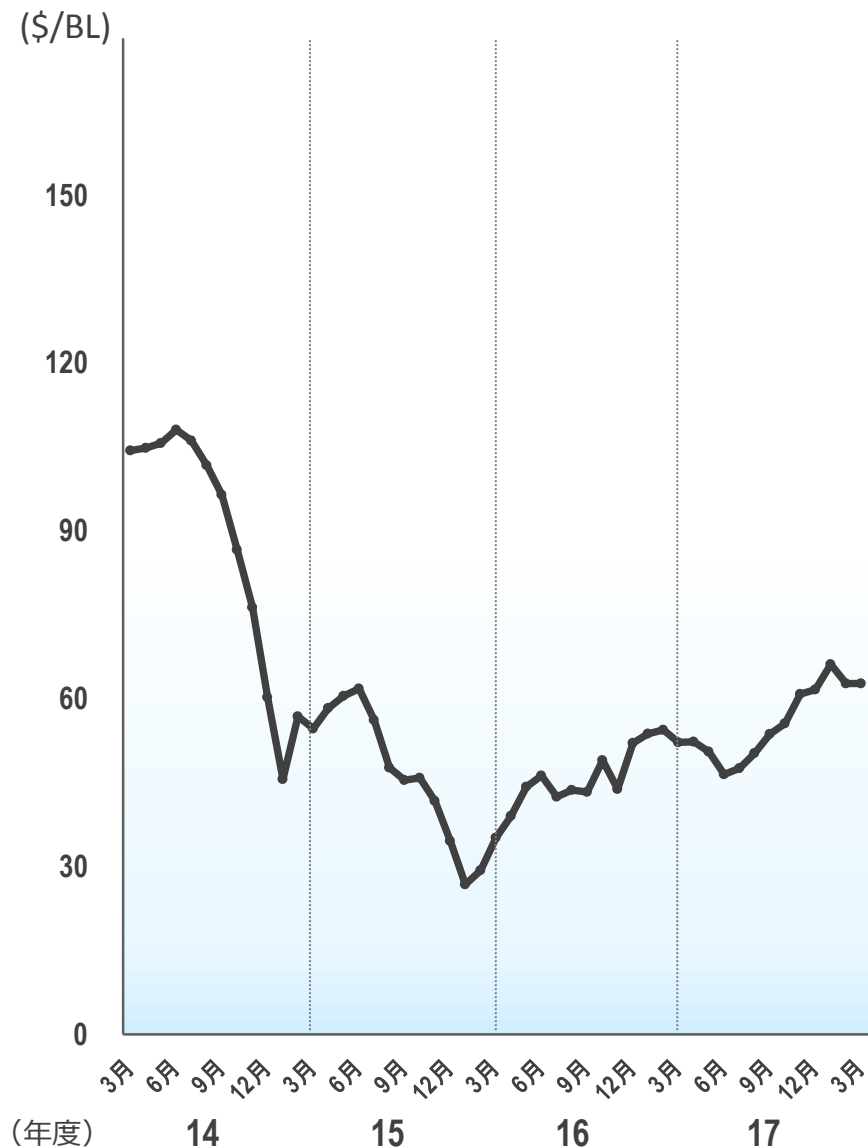
(億円)	16年度				17年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	1,742	1,788	1,821	2,061	1,982	2,064	2,100	2,203
売上原価	1,131	1,182	1,196	1,420	1,313	1,398	1,428	1,518
売上総利益	612	606	625	641	669	666	672	685
販管費	455	493	459	512	478	483	485	549
営業利益	157	113	166	129	191	184	188	135
営業外損益	-13	10	25	-27	9	-5	1	-25
(内 金融収支)	7	-3	2	-3	7	-4	3	-3
(内 持分法投資損益)	8	17	-2	-3	3	5	1	3
経常利益	144	123	191	102	200	179	189	110
特別損益	-6	-22	-15	-176	-5	51	-13	-33
税金等調整前 四半期純利益	138	100	176	-75	196	230	176	77
法人税等	22	-2	46	-241	60	64	68	16
非支配株主に帰属する 四半期純利益	1	3	3	6	2	8	3	3
親会社株主に帰属する 四半期純利益	114	99	127	161	134	158	105	58

◆ セグメント別 売上高・営業利益 四半期推移

(億円)		16年度*				17年度			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	マテリアル事業	568	547	570	596	604	630	632	675
	繊維・製品事業	665	729	723	755	664	737	755	776
	複合成形材料事業ほか	21	20	17	186	194	179	174	227
	マテリアル 計	1,255	1,296	1,310	1,537	1,463	1,545	1,561	1,678
	ヘルスケア	381	369	391	365	397	383	408	365
	その他	106	123	120	158	122	136	130	159
	合計	1,742	1,788	1,821	2,061	1,982	2,064	2,100	2,203
営業利益	マテリアル	86	76	82	69	82	87	73	94
	ヘルスケア	80	30	83	55	118	88	115	38
	その他	2	17	14	20	10	19	12	20
	消去又は全社	-11	-10	-12	-15	-19	-11	-12	-17
	合計	157	113	166	129	191	184	188	135

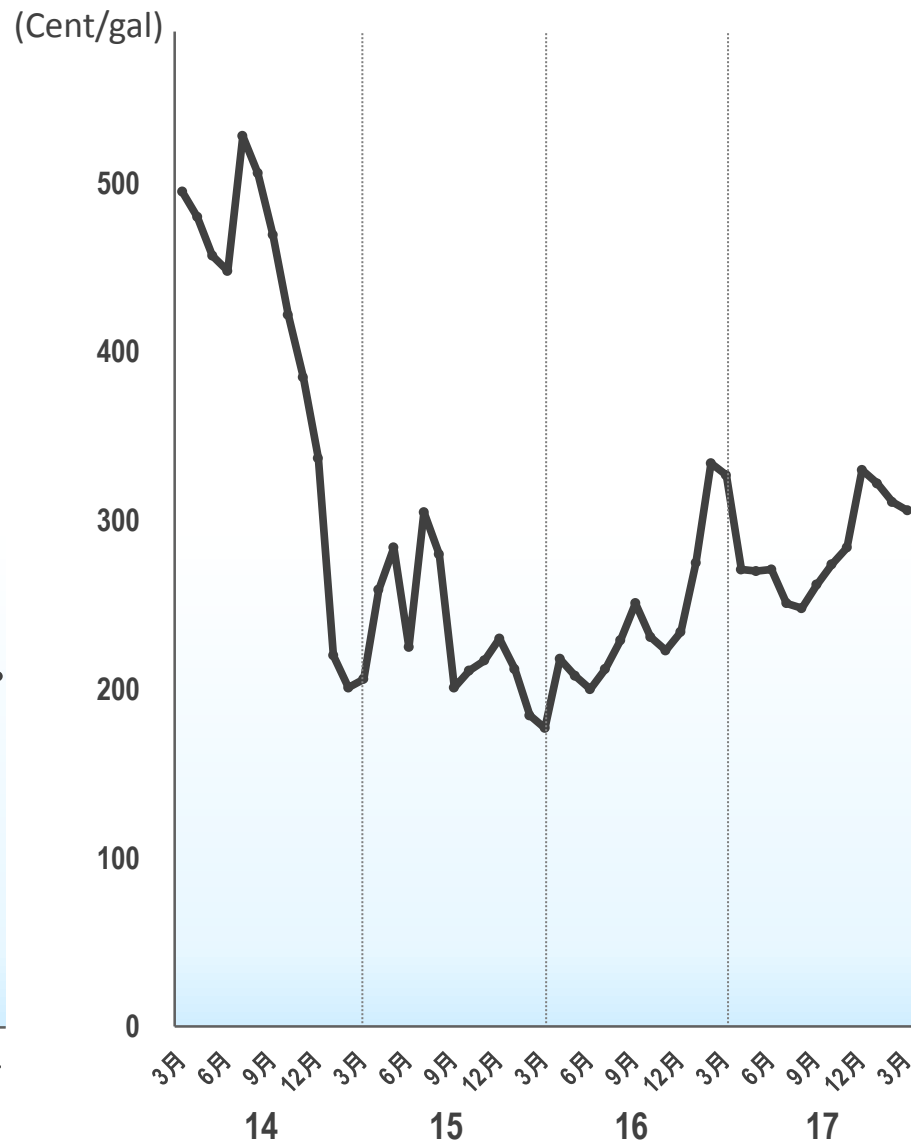
* 16年度実績の各数値は2017年5月9日公表後にセグメント間の調整を加えた結果、見直しを実施しております。

◆ ドバイ原油価格推移



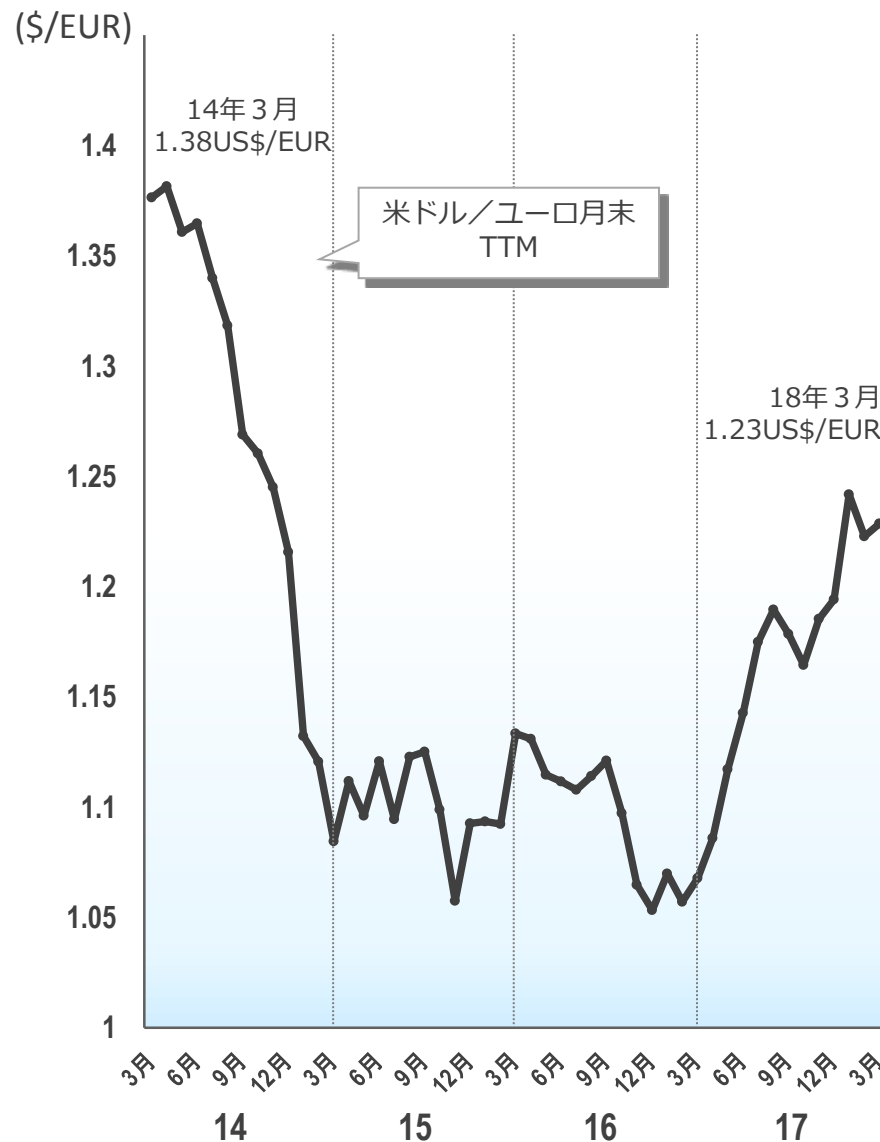
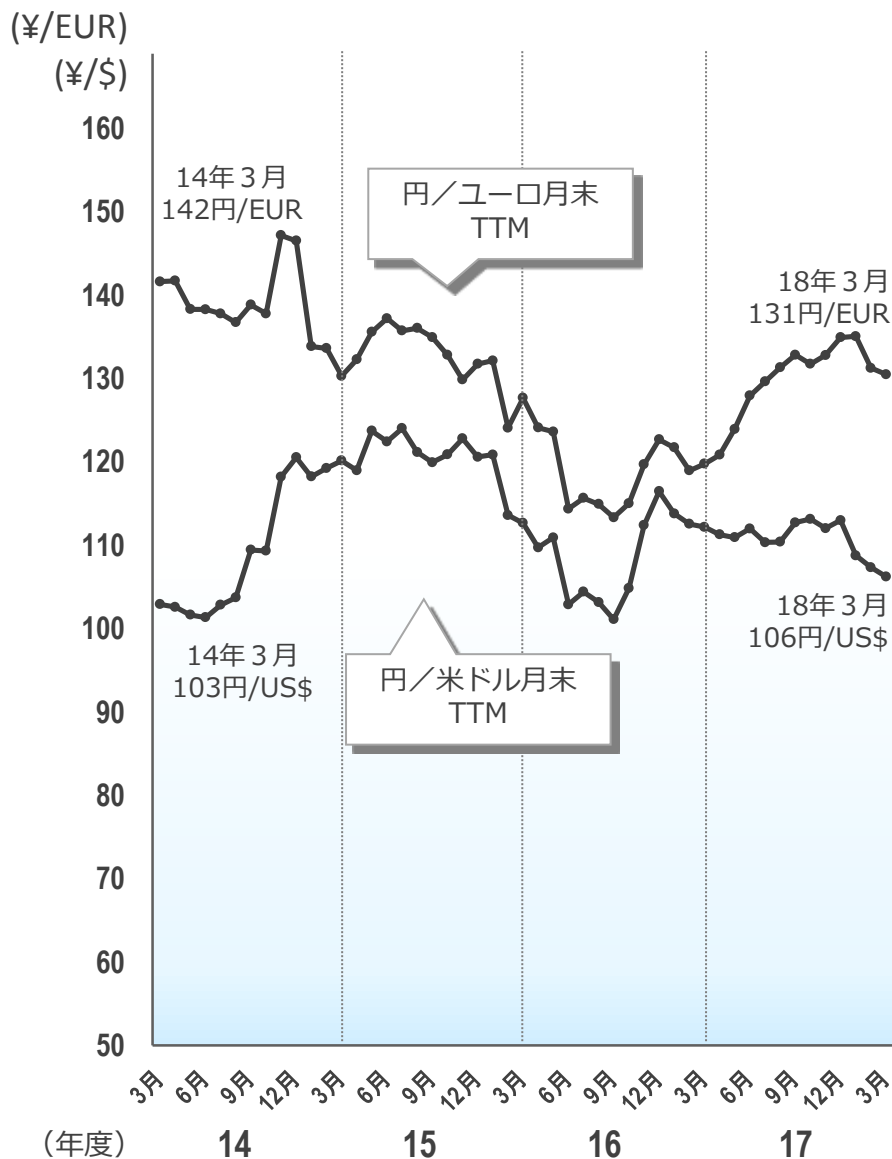
【出所：Platt's社のDATAを基に弊社推定】

◆ ベンゼン価格推移



【出所：BZ DewittのDATAを基に弊社推定】

◆ 為替レート推移 (円/米ドル、円/ユーロ、米ドル/ユーロ)



◆ 主要医薬品 売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	16年度					17年度				
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	3Q	4Q	計
ボナロン®*1	骨粗鬆症治療剤	31	28	31	25	116	28	28	30	22	109
ワンアルファ®	骨粗鬆症治療剤	10	9	10	8	37	9	9	9	5	31
骨粗鬆症治療剤	計	41	38	41	33	153	37	36	39	28	140
フェブリク®	高尿酸血症・痛風治療剤	64	64	75	63	265	74	75	88	69	307
ベニロン®	重症感染症治療剤	10	12	14	11	47	13	13	14	11	51
ムコソルバン®	去痰剤	14	13	17	13	58	13	12	15	12	51
ソマチュリン®*2	先端巨大症及び下垂体性巨人症、膵・消化管神経内分泌腫瘍治療剤	4	4	5	4	17	4	6	8	7	25
ロコア®	経皮吸収型鎮痛消炎剤	2	2	3	3	10	5	5	5	4	18
ラキソベロン®	緩下剤	5	5	5	4	20	4	5	5	3	17
トライコア®	高脂血症治療剤	4	4	4	4	15	4	4	4	2	14
オルベスコ®	喘息治療剤	3	3	3	3	12	3	3	3	3	12

*1 ボナロン®/Bonalon® はMerck Sharp & Dohme Corp. (米)の登録商標です。

*2 ソマチュリン®/Somatuline® は Ipsen Pharma (仏) の登録商標です。

◆ 疾患分野別臨床開発段階 (2018年3月末現在)

	臨床開発段階				
	Phase I	Phase II	Phase III	申請	承認／ 新規上市
骨・関節 領域		KTP-001	ITM-058 NT 201*1		
呼吸器 領域		PTR-36			
代謝・循環器 領域		TCF-12*2 TMG-123 TMX-049 TMX-049DN*3	ITM-014T*4 STM-279	TMX-67 (中国)	ITM-014N*5
その他			GGs-ON, GGs-MPA, GGs-CIDP		

* 承認／新規上市は直近1年間を記載

*1 2017年10月独メルツ社から導入したNT 201の第Ⅲ相臨床試験は独メルツ社で実施中

*2 2018年1月慢性腎臓病への適応取得を目指し、尿毒素吸着薬TCF-12の第Ⅰ/Ⅱ相試験に着手

*3 2017年12月糖尿病性腎症を適応症として開発中のTMX-049DNは米国で第Ⅱ相試験に着手

*4 2017年10月ソマチュリン®の甲状腺刺激ホルモン産生下垂体腫瘍への適応拡大に向けた臨床開発（第Ⅲ相臨床試験）に着手

*5 ソマチュリン®の適応拡大プロジェクトとして開発中のITM-014Nは、2017年7月「膵・消化管神経内分泌腫瘍」に対する適応追加の承認を取得

◆ 新規開発医薬品 (2018年3月末現在)

【承認/新規上市】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-014N (ランレオチド酢酸塩)	膵・消化管神経 内分泌腫瘍	ソマトスタチン受容体を介したアポトーシスの誘導 (直接的作用) や細胞栄養因子の分泌制御 (間接的作用) を介した作用により、神経内分泌腫瘍の進展抑制や諸症状の改善が期待される。	注射	導入： 仏イプセン社 (効能・効果追加) 2017年7月承認取得

【承認申請】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TMX-67 (フェブキソスタット)	高尿酸血症・ 痛風	国内販売しているフェブリク錠を中国に導出。本剤は、強力な尿酸生成抑制効果に加え、腎機能低下等により既存治療薬を使うことのできなかった患者へも使用が可能である。	錠剤	共同開発： アステラス製薬 (中国) 有限公司 2015年11月承認申請

◆ 新規開発医薬品 (2018年3月末現在)

【Phase III】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-058	骨粗鬆症	強力な骨形成作用により短期間で骨密度増加と骨折抑制効果が期待できる骨粗鬆症治療薬。既存薬に比べ、強い骨密度増加作用と安全性（高カルシウム血症のリスク低減）が期待できる。	注射	導入： 仏イプセン社
NT 201	A1型ボツリヌス毒素活性本体/ 上肢・下肢痙縮	A1型ボツリヌス毒素活性本体による筋弛緩作用により、上肢・下肢痙縮における骨格筋の緊張の緩和・改善が期待される。	注射	導入： 独メルツ社
ITM-014T (ランレオチド酢酸塩)	甲状腺刺激ホルモン産生下垂体腫瘍	ソマトスタチン受容体を介したアポトーシスの誘導（直接的作用）や細胞栄養因子の分泌制御（間接的作用）を介した作用により、甲状腺機能の正常化が期待できる。	注射	導入： 仏イプセン社 (効能・効果追加)
STM-279	ADA (アデノシン・デアミナーゼ) 欠損症	本剤（ポリエチレングリコール修飾遺伝子組換えウシADA類縁体）は、ADA欠損症患者にADAを補充することで、リンパ球の減少を抑える注射剤であり、重症複合免疫不全症（SCID）の発症を回避することが期待される。	注射	導入： 英リーディアント社

◆ 新規開発医薬品 (2018年3月末現在)

【Phase III】(続き)

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
GGs-ON (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	視神経炎	本剤の免疫調節作用により、視神経の炎症を抑制し、視機能を改善することが期待される。	注射	共同開発：化血研 (効能・効果追加)
GGs-MPA (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	顕微鏡的多発 血管炎	本剤の抗炎症作用と免疫調節作用により、自己免疫性血管炎を鎮静化させ、標準治療で残存する神経障害(多発性単神経炎)を改善することが期待される。	注射	共同開発：化血研 (効能・効果追加)
GGs-CIDP (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	慢性炎症性脱髄 性多発根神経炎	本剤の免疫調節作用により、末梢神経の炎症を抑制し、低下した筋力を改善することが期待される。	注射	共同開発：化血研 (効能・効果追加)

◆ 新規開発医薬品 (2018年3月末現在)

【Phase II】

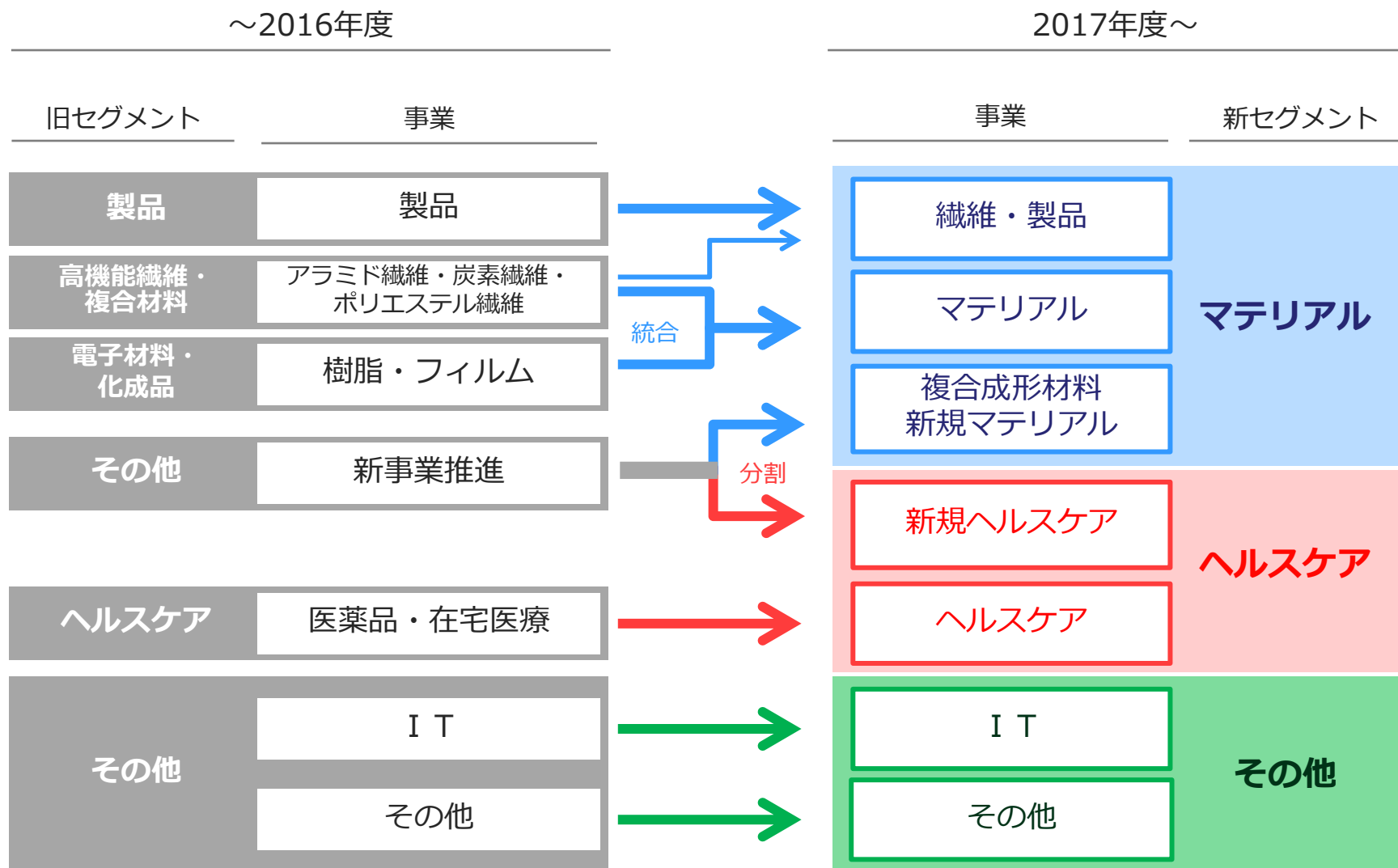
開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
KTP-001	腰椎椎間板ヘルニア	腰椎椎間板ヘルニアに対する化学的髄核融解療法剤。 生体内でヘルニアの自然退縮に関わる酵素（マトリックスメタロプロテアーゼ）と同じ構造のヒト型タンパク質であることからアレルギー反応のリスクが少なく、選択的に作用するため、椎間板周囲組織の傷害性が低いと期待される。	注射	発明者： 波呂浩孝氏、 小森博達氏 共同開発：化血研
PTR-36	気管支喘息	新規作用機序（CRTh2拮抗作用）によって喘息症状をコントロールする長期管理薬。 単剤による吸入ステロイドと同等の治療効果（軽症患者）や吸入ステロイドとの併用による十分な治療効果（軽症～重症の患者）が期待される。	錠剤	導入： 英プルマジェン・セラピューティクス（アズマ）リミテッド社

◆ 新規開発医薬品 (2018年3月末現在)

【Phase II】(続き)

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TCF-12	慢性腎臓病	繊維状吸着炭であり、尿毒素に対する高い吸着能力から、慢性腎臓病（進行性）における尿毒症症状の改善及び末期腎不全（ESRD）発症の遅延、並びに用量低減による服薬アドヒアランスの向上が期待される。	カプセル 剤	自社開発品
TMG-123	2型糖尿病	新規作用機序（肝優位型GK活性化作用）による血糖コントロール薬。 血糖コントロールが不十分な患者で有効性が期待されるほか、高い利便性（1日1回投与、腎機能低下患者で用量調節の必要性低い、薬物相互作用の懸念が少ない等）が期待される。	錠剤	自社開発品
TMX-049	高尿酸血症・ 痛風	非プリン型キサンチンオキシダーゼ阻害薬。 新規高尿酸血症治療薬として、有効性と安全性に優れることが期待される。	錠剤	自社開発品
TMX-049DN	2型糖尿病に おける糖尿病 性腎臓病	非プリン型キサンチンオキシダーゼ阻害薬。 新規糖尿病性腎臓病治療薬として、腎臓病の進展抑制が期待される。	錠剤	自社開発品

◆ 組織再編（開示セグメントの変更）



TEIJIN

Human Chemistry, Human Solutions

Human Chemistry, Human Solutions

テイジンブランドの約束を“Human Chemistry, Human Solutions”と表現します。

この約束は、「人と地球環境に配慮した化学技術の向上と、社会と顧客が期待している解決策を提供することで本当の価値を実現することに挑戦し続けること」を意味しています。

私たちはこの約束を確実に成し遂げ、企業理念であるQuality of Lifeの向上に努め、社会と顧客から信頼される企業グループであり続けます。